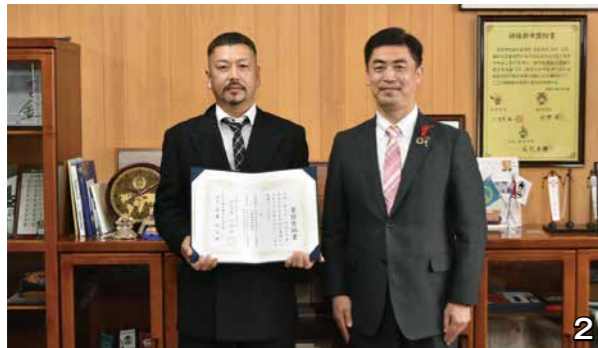


43年続くあたたかい活動

建設職組合青年部奉仕作業

10月24日、白石市建設職組合青年部による奉仕作業が市立5保育園と2児童館で行われました。この取り組みは、昭和53年の宮城県沖地震の時から復興の手助けを目的に始まり、その後も毎年実施されているものです。修繕技術料を市に寄付する形で行われ、同組合会員が各施設に出向き事前に聞き取りをした各施設からの要望箇所を修繕。保育室出入口の柵を取り付けたり、扉の取り付けや金具を交換したりと各施設からの要望箇所を手際良くこなしていきました。

11月2日に行われた寄付受納式では、山田市長は「長年、^{たくみ}匠の技で白石の子どもたちの安全・安心のために活動していただき助かっています」と感謝し、同組合青年部の佐藤佳克^{さとうよしかつ}青年部長は「この活動を通して大工さんの仕事に興味をもってくれる子どもが増えてくれればうれしいです」と話してくれました。



1_子どもたちがけがをしないように細かい箇所まで配慮して取り付けをしてくれました
2_寄付受納式で山田市長と記念撮影をする佐藤青年部長(左)

ホクホクの焼き芋を堪能！

第二幼稚園「焼き芋会」

11月4日、第二幼稚園で「焼き芋会」を行いました。サツマイモは、園児たちが6月に南町長寿会の方と一緒に苗植えを行い、10月22日に収穫したものです。この日は、3～6歳の園児66人が用意した約110本のサツマイモをアルミホイルで包んで準備したあと、園庭に用意された炭火の中にサツマイモを入れていきました。

また、焼き上がるまでの時間には、お手伝いに駆け付けてくれた南町長寿会の方たちに「秋のうた」を歌ったり、「おいもの体操」を披露したりするなど楽しくふれあいながら過ごしました。あつあつの焼き芋が出来上がり、園児たちは先生から受け取ると、みんなで喜び合いながらホクホクの焼き芋をおいしそうに頬張っていました。

園児たちは「ホクホクで甘くておいしかったです」と笑顔で話してくれました。



1_湿らせたサツマイモをアルミホイルで上手に包みます
2_炭火の中にドキドキしながらサツマイモを入れる園児。おいしく焼き上がるまでワクワク！

地域の文化遺産を学ぶ

まちあるきガイド養成講座

9月25日、「ネイチャーツアー&ガイド研修」講座が開催され受講生など13人が参加しました。この講座は市の魅力を発信する人材を育成する「まちあるきガイド養成講座」の一つとして開催。この日は白石城周辺の植物を見て回るフィールドワークを実施し、石垣に生えている植物や生育している樹木についての説明を受けました。参加者は「普段歩いている所も視点を変えて見るとたくさんの植物が自生していることに気づけました」と話してくれました。



▲立ち止まり講師の先生から植物の解説を受ける受講生

ファン待望のこけしのイベント

弥治郎こけし村まつり

11月6・7日、弥治郎こけし村で「弥治郎こけし村まつり」を開催しました。両日とも県内外からの招待こけし工人による実演販売が行われ、初日は9日前から並ぶこけしファンもいる程の盛況ぶりです。多くのファンがたくさんのこけしを買い求めていました。福島県から来た来場者は「楽しみにしているこけしコンクールが2年連続中止で残念でしたが、今回のイベントでこけしに触れ合うことができ良かったです」と話してくれました。



▲たくさんのこけしが店頭に並びました

生産者が園児に新米をプレゼント！

園児が白石産ササニシキを試食

11月10日、南保育園で白石産ササニシキの贈呈式が行われました。

これは、「地域の農産物を知ってもらいたい」と白石産ササニシキ復活プロジェクトのメンバーが、市内すべての幼稚園・保育園の子どもたちに、今年収穫したばかりの新米をプレゼントしたものです。

新米は、おにぎりにして園児たちに振る舞われ、おにぎりを食べた園児は「家のご飯もササニシキがいいな」と笑顔で話してくれました。



▲炊き立てのおにぎりを笑顔で食べる園児